

東弁今昔物語 ~150周年を目指して~

番外編 女性弁護士の誕生

司法改革総合センター副委員長・東京弁護士会歴史研究会 皆 真希 (56期)

1 日本最初的女性弁護士誕生

この春から、NHK朝の連続テレビ小説で三淵嘉子をモデルとした「虎に翼」が始まりました。

「法服」を彩る紅三點「女性の法律問題は女性が…」辯護士試験・初の栄冠」「『女性辯護士』遂に誕生」(昭和13年11月2日の東京朝日新聞)。女性が初めて司法試験に合格したことを報道する記事です。

昭和11年に施行された改正弁護士法(昭和8年改正)により、男子限定の資格条件が撤廃され、昭和13年、3人の女性、三淵(当時は武藤)嘉子、中田(当時は田中)正子、久米愛が司法科試験に合格しました(当時の合格者は約250人)。

「女性には学問が不要」と言われていた時代、3人は、女性に法律を教える最初の学校である明治大学専門部女子部(当時)で学びました。

2 三淵 嘉子 (大正3年-昭和59年)

シンガポール生まれの嘉子は、父の影響で法律を学ぶことを決意しました。母は、当初は「嫁のもらい手なくなる」と猛反対しましたが、のちに、誰よりも熱心な応援者になりました。

当時の裁判官は日本帝国男子に限られていました。裁判官志望だった嘉子は、当時のことを、悔しさが猛然と込み上げてきたと残しています。そこで嘉子は一旦弁護士になります。戦争で、弟、当時の夫(和田芳夫)、父と母を亡くしました。幼い長男を抱えながらも、裁判官への道を諦めず、昭和24年8月、念願の裁判官になりました。昭和31年8月、当時最高裁調査官だった三淵乾太郎と再婚し、昭和47年、嘉子は新潟家庭裁判所所長となりました。初めての女性裁判所所長です。その後、浦和家庭裁判所、横浜家庭裁判所の所長を歴任しました。嘉子は家事や少年の問題に熱心でその活躍は目覚ましく、また、裁判所職員や調停委員からも大変慕われていたようです。

3 中田 正子 (明治43年-平成14年)

職業軍人の傍らシェークスピアを原語で嗜む父と専業主婦の母の間に生まれました。女子経済専門学校(現・新渡戸文化短期大学)に通い、校長の新渡戸稲造、吉野作造、有島武郎、我妻榮らに学び、特に我妻榮の講義で「法律は面白い」と思ったことが法学部進学のかっかけとなったようです。

弁護士登録後は、女子経済専門学校の教授や、月刊誌「主婦之友」の誌上法律相談、嘉子や愛とともに明治大学専門部女子部が開設した「婦人法律相談」の担当を引き受けるなど多方面で活躍しました。

その後、夫の実家がある鳥取に移住し、参議院議員となった夫を支えつつ、自身も鳥取で法律事務所を開設し地道に着実に仕事をこなしました。昭和44年には女性初の鳥取県弁護士会会長と日弁連理事に就任しました。

4 久米 愛 (明治44年-昭和51年)

大阪の電力会社社長を父に持ち、9つ違いの兄、藤原守胤(アメリカの政治史学者)から大きな影響を受けました。津田英学塾(現・津田塾大学)在学中に、女性も法曹になる道が開かれると聞き、法律の勉強を始め、昭和15年に東京で弁護士になりました。終戦後、4歳の長男を亡くすなど悲しみに耐えながら、弁護士の仕事以外にも、洋裁、洗濯屋、GHQの通訳をするなど、よく働きました。

昭和25年には、「婦人使節団」の一人として渡米。日本婦人法律家協会(現・日本女性法律家協会)を設立し、26年間にわたり会長職を務め、市川房枝らとともに女性運動をリードしました。昭和51年、日本で初めて最高裁判所判事の女性候補にもなりました(最終的に任命されたのは環昌一)。

※歴史的研究という連載の趣旨から、敬称は省略させていただきました。
※参考文献：佐賀千恵美著「女性法曹のあけぼの」他